ふかまちのまど　第十九号　九五年十一月一日

議会報告

市会議員　村上徹郎

菊薫る好季をむかえ町内の皆様方には益々ご精祥のことと拝察申し上げます。

さて、先々月太郎谷バイパスが総事業費二十一億六千万円を要しやっと開通いたしました。皆様と共にお喜び申し上げます。反面交通量の増大に伴い交通事故の発生に日夜心配いたしておるところでございます。呉々もご留意下さいますようお願い申し上げます。

横断歩道、信号機の設置を関係当局に強く要望致しているところでございます。

平素大変ご無沙汰いたしておりますこと、紙面を拝借し、お詫びを申し上げる次第でございます。

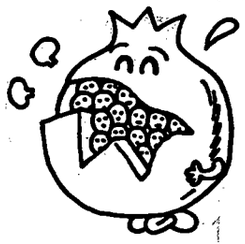
光陰矢の如しと申しますように、はや来年度予算の取組みについて検討する時期が参ります。当町内にもたくさんの要望がございますが、年次執行出来ます様に献身的努力いたして参りたいと存じています。

十二月が正念場でございますので希望・場所等をご一報戴きたいと存じます。

十一月下旬に、各町内会ごとに要望等承り度くご参集お願いいたしますので、その機会までに関係各位とりまとめして戴き、会場にお持ち寄り戴きたいと存じます。

第二中学校問題につきましては一刻も早い移転が望まれますので、二中関係者のみなさんが一丸となって取組まれる様念願いたしたいと存じます。

議会も、目下五つの特別委員会を設置しまして、各角度より検討を重ねておるところでございます。いずれも多大なる予算を伴うものばかりでございます。ゴミ焼却場建設・上水場移転・新文化会館建設・水道・交通の各決算等であります。第二中学校建設を含め、百五十億円程度の予算が必要であります。因に市の借金は一世帯当たり約百三十万円であります。びっくりされる市民の方が多いようでございます。



いずれにいたしましても、深町に投入下さる予算が過少であることにつき、私なりに一生懸命頑張っているところでございます。皆さんと共に一丸となって「予算獲得」という目的達成に努力して参いりたいと存じます。どうか今後共よろしくお願い申し上げまして、議会報告と私の所感の一端を述べさせて戴きました。▲▲

日韓友好のはじまり

兼長和幸

近代国家への道を歩む一方、五千年以上の長い歴史を持つ韓国には、東洋の古い史跡が数多く残されている。日本との文化交流の跡をたどってみたいという妻の希望もあって、昭和五十五年八月、二人でソウルへと旅立った。

当時の韓国は、全土に戒厳令が敷かれ、夜の外出もできない厳しい時で、文字といえばハングル（韓国語）と漢字ばかり、ローマ字の看板は見当らなかった。

私達はソウルから歴史をたどりながら旅行最後の目的地釜山に着いた。台風の接近でその日は大雨に「歓迎」された。翌朝、日本へ帰るため金海国際空港で出国手続き等を済ませて搭乗を待っていると、天候不順のため離陸できないとのアナウンスである。

仕方なく市内のホテルに一泊することになったが、ウオン貨を使い果たしていたので、ホテルの会計で片言のハングル語で両替を頼んだ。会計係の青年は「日本人ですか？」（日本語）と尋ねたので、「イェー（はい。）」と答えると「文通して下さい。」と言うのである。ハングル語を習い始めたばかりだったが、自分の勉強にもなると思い引き受けた。それ以来、ずっと文通が続き、韓国へ会いに行ったりしたが、この八月、彼が初めて私を尋ねて来た。

交際を初めて十五年目である。尾道・三原・広島を案内し、始めて会ったときのことを話題に語り明かし、「これから、日韓友好を続けて行こう」と誓いあって、福岡空港を飛び立った。▲▲

太平洋戦時中日記（三）

幸谷益雄

六月九日

加藤中尉が美保航空隊より龍尾に来られ、挨拶と連絡があった。その内容は、私を美保航空隊の松野班長代りに交替さすことであった。直ちに大分駅発午後四時過ぎ工員一人と一緒に出発。途中山陰線進行中、空襲警報発令あり、鎧戸を下ろし消灯して、境港線おおしのず駅に着いた。美保の橋部隊整備兵十五名と工員十名が居住することになり、その後は彗星四三型を三三型に改修することであった。

手牧で製作された攻撃機二～三機が飛来するのを翌日までに改修することであった。

改修工事は操縦席の防弾鈑を除きその後側にもう一個の席を設けることであった。

七月二日

美保での改修工事の任務は、舞鶴三三空廠に引継がれたので我々は五藤の本隊に移転し、七月二十一日に大分に帰った。その間、空襲警報は二度あり境港線の松林に避難しようとしたが飛行機が避難していたので道路わきに逃げ込んだ。▲▲

深の歴史（二）

深の先祖は大三島の人か

畳　高崎壽郎

昭和三八（一九六三）年、深小学校創立九十周年記念として、先輩有志により深郷土誌が発刊された。誠に貴重な書であり、これをベースにして深の歴史を辿っていきたい。

かって同じ村だった尾道市久山田町では、大峯山の岩海から弥生時代の銅鉾・銅剣が出土し、近くから同時代の土器の破片がみつかった。深からは、古墳や土器などの古いものが発見された様子はない。

深郷土誌には、「奈良時代の天平元（七二九）年、伊予の国（愛媛県）大三島の佳人が理想の開拓地を求め、広く各地を遍歴したが、ついに我が村に足をとめ子々孫々繁栄の地とし、以来開拓の業に励み、あらゆる艱難辛苦にうちかち、人類未踏の原始林も今日の如き美田となり、美しい郷土ができたのである」と記されている。

大三島の人が深の先祖と考えてよいと思われるのは、氏神干川神社の祭神である。祭神は大山祇神と八幡神で、ご承知のように大山祇神は航海、殖産の神様で大三島の大山祇神社と同じである。山の中の村で航海の神とは少しおかしいと思われるかもしれない。

海岸から遠く離れているが、新天地を求めはるばる深の地に入植した人々が、今まで信仰していた神を祭るのは不思議ではない。前述の久山田でも、これとよく似た例がある。

長畑鉄工所の西山裾に、所主（とこぬし）権現がある。中組田屋講の西端の一角に良地をトして村造りの大恩人として社殿を建立し、報恩謝徳の誠をあらわしたものである。

毎年旧暦七月一六日には、如何なる凶作の歳にも必ず太鼓踊りを奉納する習わしがあり、旧暦の九月一八日には祭典が執行されていた。

元和二（一六一六）年、干川神社が創建されたままで所主権現は、深の一の宮であったと思われるが、明治四二（一九〇九）年、新政府の勧めにより干川神社に合祀され現在は、二の宮となっている。

平安時代の「天長七（八三〇）年、当時村内の戸数は十七戸とみられる」と、深郷土誌にある。▲▲

◆お知らせ◆

同和問題研修会が十一月十一日、午後七時から上、中、下公民館で行なわれます。たくさんの出席をお願いします。

秋祭りのおれ

干川神社役員一同

五穀豊穣・家内安全を祝っての秋祭りも、町民皆様多数のお参りにより盛会裏に終わることができました。心より感謝申しあげます。

又、宮入費につきましては、多額のご出宝をいただき誠に有難うございました。

尚、秋祭りについて、ご意見ご感想などありましたら各組役員でお寄せください。

十一月各種団体行事予定

★小学校

▼陸上記録会11/2 ▼市P連バレー大会11/3 ▼新入児受付11/6～10 ▼交通教室11/10 ▼就学児健診11/17 ▼解放文化祭11/19 ▼学習発表会11/28

★消防団

▼実習訓練11/8 ▼火災予防週間11/9～16

★女性会

▼親睦会 上11/24 中11/4 下11/3 ▼料理教室11/17 ▼クリーン作戦11/19

★下町内会

▼川掃除11/末 ▼役員会11/4

展望席

かって国鉄職員のモラル・マナーの低さがなげかれた時代があった。改札口で切符を手にとらず、お客に持たしたまま鋏をいれる人もいた。そんな時代でも新幹線相生駅改札係は「ありがとうございました」

▼先日ある集会で広島総合体育館に行くのにJRを利用した。「おはようございます」「ありがとうございました」という声が三原・広島駅共にあった。公共交通機関の職員としてどうあるべきかの反省結果だろう。利用者を「お客様」の視点で捉えた帰結である▼先月市内外科医のお世話になった。「明日もいらっしゃい」ということで治療に行った。休みで他に患者がないので一時間ばかり話し込んだ。「医療設備の投資額が大きく、その回収が大変で小さな町医者では採算ラインに達しない。大きな手術をすればスタッフも揃えなくては…」▼かっての国鉄はお客不在だった。頭を下げることは「屈辱」だったにちがいない。強いもの、代名詞だった国労も変わった。医師も別格では有り得ない時世なのか…？